

古いまちなみと天然の良港を活かしたまちづくり

～（和歌山県湯浅町）～

【和歌山財務事務所】

1. 町の歴史

紀伊半島の北西部に位置する湯浅町は、古来より熊野古道の宿場町として栄え、江戸時代には紀州藩の保護を受けて醸造業が発達し、醤油発祥の地としても知られています。また、現在も町の中心部には古く栄えた頃の町並みが残っており、平成初め頃まではこれらの町並み見学のため、紀南方面への行き来の途中で立ち寄る観光客が多く見られ賑わっていました。しかしながら、平成6年に湯浅御坊道路が開通した以降は、紀南方面への観光客が当町に立ち寄ることなく通過してしまうようになり、まちなかへの観光客は減少しました。



2. 取り組みの経緯

こうした中、平成9年に、このような状況を憂いた住民が立ち上がり、商工業者や住民が中心となって「まちづくり委員会」を発足し、自然や歴史文化などを活かしたまちづくり答申を町に提案しました。町はこれを受け、平成13年に「湯浅町中心市街地活性化基本計画」を策定、翌年の平成14年から、湯浅町商工会がこの計画の実施主体となって地域資源を活かしたまちづくりを展開してきました。

3. 主な取組内容

① 観光客受入れの基盤整備

観光客を呼び戻す取組としては、まず、街路灯や看板などを熊野古道にふさわしい町のデザインに改修しました。また、平成18年に和歌山県では初めてこのエリアが「重要伝統的建造物群保存地区」の指定を受けました。その後も地区内の家屋の保存はもとより、江戸時代から昭和60年に営業を終えるまでの間、長年にわたり地域住民の憩いの場として親しまれた大衆浴場の改修やレトロな景観を醸し出す街路整備、公衆用トイレの設置など、ハード面の整備を続けています。また、ソフト面でも、まちなかにある休憩施設をより充実させ、観光案内や湯浅醤油、金山寺味噌等の特産品販売のほか、地元農産物の直売や湯浅の写真展示、レンタサイクルなどの整備も行っています。



② 湯浅町への誘客取組

湯浅町は良好な漁場に恵まれた県下有数のアジ・サバの水揚げ地でもあります。そこで、県内外から多く誘客するため、このアジ・サバをPRし、鯷船釣り大会、鯷グルメフェア、フリーマーケット等の様々なイベントを開催しています。中でも、毎年1回開催する「ゆあさの鯖と鯖まつり」では、県内外から多くの観光客が集い、ユニークで愛らしいシンボルキャラクターの「サバ君、アジ君」や揃いのオリジナルウェアを着用した地元スタッフとともに大いに盛り上がっています。最近ではこの様子が全国放送のテレビ番組等に取り上げられるまでになっています。



4. 取り組みの成果と今後の課題

こうした取り組みを行ってきた結果、湯浅町を訪れる観光客数は、平成14年度では26万人程度であったのが、平成23年度には48万人を超えるまでになりました。また、取り組みを始めた頃は、住民の中にはまだ消極的な者もみられていましたが、取組が徐々に充実しまちなかのにぎわいが少しずつ戻り出してきたことに伴い、これらの住民も積極的に取り組むようになり、町全体でのまちづくり機運が高まってきています。

しかし、一方では、まちなかを訪れる観光客は増加してきたものの、観光客の消費行動までは繋がっておらず、地元への経済効果が低いといった課題を有しています。

これを受け、平成23年に、名物のしらす丼を提供する町内の飲食店と町が協同して、湯浅醤油や金山寺味噌等の地元食材を兼ね合わせたしらす丼を開発したところです。また、和歌山大学の学生が自ら食べ歩いて、湯浅しらす丼の「食べ歩きマップ」を作成し、これを町内の観光施設や商業施設に設置するなどの取組も行われています。さらには、しらす丼を県外にも広くPRするため「全国ご当地どんぶり選手権」に出品しました。惜しくも決勝に進出することはできませんでしたが、しらす丼を提供する飲食店の結束に繋がり、次こそは決勝進出すべく新たなどんぶりの開発に力を入れています。



このほか、更なる観光客の呼び込みのため、旅行会社と連携し、当町だけでなく周辺市町村をパッケージとした観光プランの提案や修学旅行、学生の合宿等の誘致などにも力を入れて取り組んでいます。また、若者層にももっと多く来てもらえるような魅力の創出の検討も開始しています。

このように、湯浅町では、町全体で地域資源を活かした積極的なまちづくりや誘客の取り組みを積み重ねてきており、今後もさらなる発展が期待されます。

(湯浅町ホームページアドレス <http://www.town.yuasa.wakayama.jp/>)